

伊賀市社会事業協会

2009

2009年11月25日 第18号

発行 者

社会福祉法人伊賀市社会事業協会

理事長 西岡 時彦

〒518-0032三重県伊賀市朝屋739番地の2

T E L 0595 - 21 - 5545

F A X 0595 - 23 - 6670

URL <http://www.iga-sjk.or.jp/>

悲 運

社会福祉法人 伊賀市社会事業協会

会 長 森 下 達 也

太平洋戦争という途方もない惨禍を、百年や二百年で忘却の彼方へ押し遣ることは出来まい。しかしその記憶を直接刻み込んだ生身の脳は、残念ながらあと十年位でこの世から大方消え去ることであろう。そこで、今のうちに書き留めておこうという昨今の呼びかけになるのだが、忘れないでほしいのは、戦争から理不尽な惨禍をこうむるのは戦場にいるものだけではないということである。

私はあの開戦の日を、遼東半島の大連市で迎えた。大連静浦小学校四年生の冬である。私たち四年生は男女各四十名位の二クラスであった。因みにこの学校は敗戦後消滅したが、今でも年一回辛うじて同窓会を開いている。今年はいよいよ先頃十月三十一日に新宿の京王プラザホテルで開催、参加者は合計百七十三名で、私たち八回生は男女合わせて二十一名であった。しかし最後の十六回生がもう七十歳だから、一切が無に帰するものも遠くはないであろう。

ところで私たち男子四十名のクラスの中に、中国人が一人白系ロシア人が一人いたのである。当時これは少々珍しいことであった。白系ロシア人はともかくとして、日本人用の小学校に中国人の少年が在籍するのはあまりないということである。敷衍していえば、満州国の中とはいえ日中交戦の時代に、中国人少年を日本人学校に入れたとすれば、多分その親は対日協力者という面でかなり有力な人物に限られたのかもしれない。勿論日本の敗戦は予想にない。

しかし私たち少年の世界は、大人の思わくとは無縁であった。彼すなわち金萬振君は、その落ち着いた性格からクラスメートの信頼を受けていたようだ。彼の机は私のすぐ後ろにあって、算数を彼から時々教えてもらった。彼が私にたずねるのは国語であった。授業中に私が振り返って彼と話しているところを先生に見付かり、二人並んで廊下に立たされたこともある。少なくとも彼は主犯ではなかった筈だが、ひとことも言い分けをすることなく一緒に立ってくれた。今も私の胸にのこる小さな温もりである。やがて、昭和十九年の春大連静浦小学校を卒業した彼は、商業学校へ進むこととなり、

大連第三中学校へ進む私とはそこで別れた。

その後戦況は急速に悪化し、昭和二十年八月十五日、日本は降伏した。在満の日本軍はソ連軍に武装解除され、大連市はソ連軍の支配下に入った。悪名高いソ連兵の掠奪と婦女暴行のあらしが少しおさまり、中国人による大連市政府が機能しはじめた或る日のこと、私は街頭で金萬振君と侘しい出合いをしたのである。私とは反対側の歩道を来る数人の中国人少年がいて、その中の一人は確かに彼であった。彼と私の視線は合い、なつかしさを手上げようとした私は、凍り付いた。彼はすぐ目を逸らし仲間話しかけながら去ったのである。敗戦国日本の私を侮蔑したのか！ いや違う。一瞬のうちに私は、彼の苦しい立場と暗い未来を感じ取ったのだ。

昭和二十二年、祖国に帰ったクラスメートたちは、進学する者、苦学する者、働く者、それぞれ懸命に生きた。昭和四十年をすぎて少し落ち着くと、私は金萬振君の消息が気になりはじめた。やがて或るルートからの回答は、「文化大革命に際し殺されたらしい。この世にいないことは確かである」というものであった。同胞中国人の目に怯えなければならなかった彼の日々を想うと遣りきれない。戦争は、何の罪もない少年にまで陰惨な打撃を加えたのである。この稿に彼の実名を出したのは、罪もなく消された立派な存在を、せめて書き留めておきたいという思いであったことを申し添える。

(三重県社会福祉協議会会長)



松田昇写真集「風土記」より、「供奉行列小休止」（上野天神祭）



かいっぱい、元気いっぱい運動会

中瀬城東保育園



澄みきった秋空の下、中瀬城東保育園では秋の運動会を開催しました。

子どもたちは、多くの観客の前で競技やかっこ・リズム表現などを楽しみました。縦割りクラス（三・四・五歳児）のパラバルーンの表現では、「しっかり持つてや。はなしたらあかんよ」と、大きい子が小さい子に声をかけていました。パラバルーンが大きく膨らむと、「わあ、ホットケーキや」と、小さい子が歓声をあげていました。

年長児の組体操では「足しっかり持



やった！ポーズが決まったよ

とな」と声をかけ合い、ロケットや扇などを表現しました。子どもたちからは友だちと協力し、やり遂げた満足感が伝わってきました。保護者の方も子どもたちの動きに息をのみなながらも、ポーズが決まると大きな拍手を送ってくれました。



みんなで大きいホットケーキ作るよ

「やったあ」「楽しかった」という達成感がどの子にもあふれ、保護者からは成長を喜ぶたくさんの声が聞かれました。

蕉門ホール語り部塾の皆様と一緒に



～心豊かに、むかし話～

府中保育園



当園では、子どもたちの想像力・集中力・感性を育むことを目的として、蕉門ホール語り部塾の方をお招きし、伊賀地方に伝わる昔話を年3回聞かせていただいています。

♪こーろ こーろ こーろこーろ♪と始まりを告げる語り部の方の歌につられて、子どもたちも一緒に



お話の世界の魅力にひかれる子どもたち

口ずさみお話が始まります。話の中に地名が出てくると、「ずっと前、そこ通ったことある」「あっ、そこ僕の家近くや」などの声に、「そうか、そうか」と語り部の方が話をつないでくれます。お話の世界を共有することにより、子どもたちと語り部の方が一体となっていきました。

子どもたちは心温まる昔ばなしの魅力にすっかり引き込まれ、毎回楽しみにしています。これからも心豊かに育ってくれることを願ってこの催しを続けていきたいと思っています。



楽器あそびを披露する子どもたち

ふれあいコンサート ～木管楽器の音色に親しんで～

心身障害児療育施設 かしのみ園

8月中旬、当園ふれあい会（保護者会）主催で、ボランティアグループ「イングリッチ」によるコンサートを開催しました。「イングリッチ」は伊賀市役所の管楽器奏者8名で構成するボランティアグループで、当法人で演奏していただくのは2回目です。この日は、クラリネットやフルート奏者、司会の方など7名の方にお越しいただき、子どもたちに人気のディズニーシリーズなど映画音楽の演奏や、楽器紹介をしてくださいました。園児は温かみのある音色に聞き入り、一緒に歌ったり、全身でリズムをとったりして楽しんでいました。

保護者からは「生演奏が聞けて良かったです」「いつもとは違う子どもの姿や喜ぶ声を聞けて嬉しいです」という感想が多く聞かれました。

素敵な演奏で会場がひとつになり、家族みんなで楽しいひと時を過ごすことができました。



美しいハーモニーが会場いっぱいに広がりました



まずは集合あそびから

集中力や瞬発力、調整力などが自然に身につく、体を動かす楽しさを十分に体験できた一日でした。

子どもたちからは、「おじいちゃん、おばあちゃん喜んでたなあ」「また来たいなあ」などの声がありました。歌や忍ジャーズダンスなどを披露した後、お年寄りとおふれあい遊びを楽しみました。曲に合わせて肩たたきをしながら、お年寄りの顔を覗き込むと、「ああ、気持ちいいわ。ありがとう」と言ってくれました。「もう一回たいてあげよか」と、たたく手に力が入ります。ふれあいながら心を通わす肩たたきは、毎回喜ばれています。

世代間交流を通して、思いやりの心が育つよう、今後もこの交流を続けていきたいと思えます。



元気な声でこんにちは

六月半ば、睦保育園で五歳児二十四名を対象に、三重県サッカー協会主催による「キッズサッカー教室」を開催しました。最初、緊張気味だった子どもたちは、見慣れたボールやフープを使って遊ぶうちに気持ちさがほぐれたようです。

まず、集合あそびから始まり、子どもたちはコーチの指示や合図を集中して聞き、機敏に動き回っていました。次に、ボールを体全体にはわせたり、足ではさんだり、お腹や背中を押さえたりする「ボールフーリング」をはじめて体験しました。「また、ボール落ちた」「むずかしいなあ」と言いながらも、何度も挑戦している子どもたちのエネルギーが、驚かされました。



はじめてのボールフーリング



お年寄りとのふれあいを通して ～思いやりの心を育てる世代間交流～

長田保育園

キッズサッカー教室に参加して ～体を動かすって楽しいな～

睦保育園



懐かしきのお祭り

盲養護老人ホーム
梨ノ木園

老人・身障施設のページ



体が自然に踊り出します



朝晩の虫の声に秋の気配を感じ始めた八月下旬、恒例の夕涼み会を開催しました。今年は、懐かしい夏祭りの雰囲気をご利用者の皆様に感じていただけるようにと、夜店をイメージして、焼きそばの屋台を出し、香ばしいソースの香りと味を楽しんでいただきました。



ポン菓子、懐かしいなあ

「懐かしき」をテーマにして、くじ引きの景品では、金平糖やポン菓子などを準備しました。どのお菓子も大好評で、昔の思い出話があちらこちらで聞かれ、大変盛り上がりました。ご利用者の皆様は、夕涼み会に向けて練習を重ねた「江州音頭」と「伊賀上野小唄」で、職員と共に楽しい踊りの輪をつくりました。笑顔の絶えない夕刻のひとつときとなりました。



行楽と食欲の秋、ぶどうだよ！

障害者支援施設
梨丘園



今年の「秋の旅」は、名張市にある青蓮寺ぶどう園に出かけました。晴天に恵まれ、秋の風が心地良く爽やかな1日となりました。

ぶどう園ではデラウェア、巨峰、紅富士の3種類のぶどうが実っていました。ご利用者は、ぶどう袋のわずかな隙間から中身をのぞいたり、袋の上から触って鮮度を確認したりしながら、お気に入りのぶどうにハサミを入れます。たくさんの中からどれにしようかと選ぶ時間をゆっ

くり楽しんでおられました。

自分で採ったぶどうを食べるということで、おいしさも2倍、3倍に感じられます。季節感を味わいながら、ぶどう狩りを堪能されていました。

園に帰っても「またぶどう狩りに行きたいなあ」という声も聞かれ、行楽の秋と食欲の秋を満喫していただきました。



やっぱり、とれたては違うね



お腹いっぱいになりました



指先に神経を集中して

当センターでは、ご利用者の趣味活動として「ちぎり絵」や「塗り絵」を楽しんでいます。

指先を使うと脳の活性化につながるということで、当初は二、三名でスタートしましたが、次第に人数が増え、最近では一ヶ月ほどの大きな作品作りにも挑戦しております。

テーブルを囲んで、世間話をしながら和やかな雰囲気の中で作業は進んでいきます。

春には桜、夏には花火など季節の移り変わりを感ぜさせてくれる四季折々の鮮やかなちぎり絵の数々は、皆様が集うラウンジの壁を賑やかにしています。

「ちぎり絵」の力作がそろいました！
ラウンジは季節感にあふれています！

デイサービスセンターなしのき



秋の大作「お月見」

ほけんだより ロコモティブシンドローム (ロコモ)について(その1)

近年、介護を必要とする人や寝たきりになる人が急速に増えています。介護が必要と認定された人の数は、この6年間でおよそ2倍に増加しました。

要介護や寝たきりになる原因には、「脳卒中」や「認知症」があります。しかし、約4人に1人は「関節の痛み」や「転倒」などによる「骨折」など、骨、関節、筋肉といった体を動かす「運動器」の障害が原因です。これらを防ぐために、今までとは違った考え方で運動器の障害をとらえることが必要になってきました。こうした考え方から、新たに提唱されたのが「ロコモティブシンドローム」です。

ロコモティブシンドロームとは、骨、関節、筋肉といった運動器の機能が衰えることにより、日常生活での自立度が低下し、介護が必要になったり、寝たきりになる可能性の高い状態です。日本語では「運動器症候群」といい、略して「ロコモ」とよばれます。「ロコモ」の主な原因として、次の5つの運動器の機能低下や疾患があげられます。

1. バランス能力の低下：体のバランスをとるためには、筋肉、関節、脳のネットワークが円滑に働く必要があります。
2. 筋力の低下：体を支えている筋肉の力が、大きく低下します。
3. 骨粗鬆症：骨の量（骨量）が減少して骨がもろくなり、骨折しやすくなる病気です。
4. 変形性関節症：膝や腰といった関節にある「軟骨」がすり減ることなどで痛みが現れます。
5. 脊柱管狭窄症：加齢などで脊柱管が狭くなると、脊髄が圧迫され、手足に痛みやしびれなどが現れたり、力が入りにくなります。

“ロコモ”予備群は全国で推計 4,700 万人といわれ、70 歳以上に限ると、95%の人が当てはまります。また、日本人の平均寿命は急速に延びて高齢化を迎え、運動器（骨や関節）は耐用年数を超えるほど使われています。体を上手に使う、運動器の機能を維持する必要があります。

次回は、運動器の機能を維持する方法などについてご説明いたします。

梨ノ木診療所々長 医師 山崎征治

九月二十一日敬老の日、第二梨ノ木園では「おめでとうございます」という声が繰り返し聞こえてきました。最長寿で百二歳の前川むめ様がこの日の主役です。

伊賀市より内保博仁市長と社会福祉事務所の中出富一所長がお祝いにご来園くださいました。

いつもよりちよつとおめかしをして、車椅子に乗った前川様は少し緊張されているようでしたが、敬老の行事に出席していただいたご家族に囲まれるとお顔もやわらかな表情になり、とても安心されている様子でした。

明治生まれの百二歳、長寿を毎年お祝いさせていただけることは、本当に嬉しいことです。今後ますますのご健勝とご長寿を願っております。



内保博仁伊賀市長よりお祝いをいただく前川むめ様とご家族

主役は百二歳

特別養護老人ホーム
第二梨ノ木園

手作り防災頭巾

かしの木ひろば

ボランティアの皆様
に防災頭巾を縫って
いただきました。材料
は、地域の方から頂
いた布とタオルです。
頭の部分はタオル2枚



防災頭巾で身を守ります

重ね、肩の部分は2
枚重ねになるようにして表布でくみます。片手でも
止められるようにマジックテープが付いています。い
ざという時にすぐ取り出せるように、ラップの芯に防
災頭巾を巻き椅子の下に取り付けました。座ってい
る状態で椅子の下の紐を引っ張ると防災頭巾が出
てきます。

身近にある物で、防災頭巾が出来上がりました。
「備えあれば憂いなし」と言いますが頭巾の出番
がない事を祈りたいと思います。



日々の訓練で万一の災害に備えます

“かしの木ひろば” 15周年

地域・ボランティアの皆様を支えられて

かしの木ひろばは、家族やボランティア・地域の皆様の
温かいご支援のおかげで今年15周年を迎えることができま
した。そのお祝いと地域の皆様との交流を深めたいと考え、
角谷伸昭さんほか2名をお迎えしてハーモニカ演奏によるコ
ンサートを開催しまし
た。



ハーモニカの音色に心が癒されます

はじめに「荒城の
月」「千の風になって」
などの演奏を聴かせて
いただきました。来場
者の皆様は、ハーモ
ニカのどこか懐かしい
音色に聴き入っておら
れました。次に「ふるさと」「知床旅情」などの唱歌や歌
謡曲の演奏に合わせて、みんなでいっしょに歌いました。「3
人の息がぴったり合ってきれいなあ」「知ってる歌もいっ
ぱい歌えたなあ」と喜んでおられました。その後、マジック
ショーや茶和会でなごやかな雰囲気になりました。

今後もボランティアの方々や、地域の皆様の温かいご支
援に感謝し
ながら、ご
利用者の
QOL（生
活の質）の
向上を目指
してまいり
たいと思い
ます。



マジックショーも盛り上がりしました

耐震補強工事完了

上野点字図書館

昭和三十五年四月、上野点字図書館は、隣
接する上野市（現伊賀市）盲人ホームの図書
室として発足し、現在の建物は、昭和四十六
年四月に厚生省（現厚生労働省）の認可を受
けて、開設いたしました。同館では多くの点
訳や音訳のボランティアの方々にご協力いた
だき、開館当時二、二〇七冊であった点字図書は
一九、〇〇〇冊を超え、録音図書は三九巻から
二二、〇〇〇巻を超えています。しかし四十年
近くが経過した建物を耐震診断した結果、現
在の基準値を下回っており、早急に耐震補強工
事を施工する必要があることが判明しました。
早速、工事業者の入札等様々な手続きをす
ませて、本年六月二十四日工事に着工、十月
十七日に無事工事を完了しました。同建物は
建築基準法上の基準数値を上回る耐震性能を
確保することになり、職員はもとより多くのボ
ランティアの方々も来館される上野点字図書館
は、より安全な建物として生まれ変わることが
できました。引き続き、点字・録音図書の製
作、収集、貸出、点訳・音訳ボランティアの養
成や各種相談業務等の事業を実施し、視覚障
がい者の更なる福祉と
文化の向上を目指して
まいります。

末筆になりました



リニューアルした上野点字図書館

お知らせひろば

【ご支援】協力いただいている方々

(平成21年6月～平成21年10月)

《個人》 — 敬称略・五十音順 —

石原 京子、伊藤 欣二、稲森千鶴子、猪木 千里、猪田 智美、上野 庸、海野 啓子、岡森 金一、岡森眞理子、小川 紀子、奥田 英夫、奥田やえ子、角谷 信昭、門田 進、北泉 優子、葛岡エミ子、黒 てる子、後藤 のぶ、小林ふじ智、佐々木良真、清水 栄子、須川きよ子、村主千代子、朱雀 文雄、角田 清、角田 充代、空森 栄幸、竹島 和美、田中美代子、谷山 智晴、田山紗知子、塚本 初子、富田 幸治、豊岡 百子、豊田 實、中川 定子、長崎 省三、長町 尚格、中村 節子、中村富四郎、中森 勇、中森 洋子、中山 洋美、福澤 正志、藤井 充子、藤島 千代、藤林 政代、藤森 悦世、藤森 直美、前川 悟、前川 光枝、松田 玉江、南出 寛三、宮土 和子、森 令子、森岡 佑子、森下 弘子、森田 満枝、森中 一美、矢口キヌ代、矢倉 昌、安田 賢一、保田 信治、矢萩 和子、山口 義美、山下登美子、山下 吉男、山本 浜子、山本 兵三、米井 繁一、蓬田千恵子

《団体》 — 敬称略・順不同 —

上野点訳奉仕グループあい、上野点訳グループしのだ、名張点訳奉仕グループあかり、名張点訳グループたま

絵手紙ひろば、

絵本ボランティア「もも」

鶴岡ホール語り部塾

ボランティアグループあゆみ、

ボランティアグループイングリッチ、

ボランティアグループミックスジュース、

大滝地区、桂地区、桑町自治会、

寺町自治会、寺町老人会、

長田地区住民自治協議会、治田地区、

花垣地区、花之木地区、古山区長会、

古山区市民センター、

しんぎ地区民生・児童委員、

古山区民生・児童委員、

南山城村、予野地区、

下友生地区老人クラブ、

徳居町老人クラブ、

中瀬老人クラブ連合会、

福居町老人クラブ、

伊賀市上野町障害者福祉会、

伊賀市医師会、

伊賀市更生保護女性の会、上野支部、

伊賀地区交通安全協会女性部会、

三重県サッカー協会、

三重県少子育推進協議会、

日蓮宗法華寺上野支院安立寺、

平井神社、上野自動車学校、小川整備

小川モーターズ、グリーンティ高尾、

コーカ共同製茶、田山第一共同製茶工場、

田山北部共同製茶工場、

田山南部共同製茶工場、

JA伊賀北部古山ふれあい店、

武田歯科医院、

西屋フンキ、人形のまるよし、

古山郵便局

梨ノ木職員研修

高齢者施設及び障がい者施設で業務に携わる職員が集まり、より専門性を高めるために2か月に1回、「梨ノ木職員研修」を実施しています。

過日は、富山県で開催された「全国老人福祉施設協議会 東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会」の復命研修として、本年度3回目の「梨ノ木職員研修」を開催しました。

まずはじめに梨ノ木園長から、映画「おくりびと」の原作者である青木新門さんの基調講演「いのちのバトンタッチ」の要約報告がありました。その中で「生と死は同時に存在しているのに今の時代は生と死を区別してしまっており、死の瞬間に向き合わずに死を頭で考えてしまっている。だから残忍な事件が後を絶たないのだ」と強調されたとのことでした。参加した職員がそれぞれ、再度死生観について考えることができました。



また、終末期ケア分科会「看取り介護の実践について」を発表した第二梨ノ木園介護員が、「看取り介護はその人を知りその人の尊厳を守ることが大切であり、特別なことではなく普段の介護の延長線上にある。何よりも、ご利用者やご家族に看取り介護を託される信頼関係を築くことが大切である」と、スライドを使用して報告しました。その後のグループ討議で看取り介護などについて、活発な意見交換を行ないました。

各職員が互いに意見を出し合い理解を深めることが介護の質の向上につながります。ご利用者の皆様に満足いただけるサービスの提供ができるよう、今後も「梨ノ木職員研修」を通じ、職員の福祉の心と介護技術の向上を図ってまいりたいと思います。

編集後記

東海地方に凄まじい被害を及ぼした伊勢湾台風から今年でちようと半世紀がたちました。去る10月8日にはよく似た進路で台風18号が伊勢湾地方に接近し、伊勢湾台風再来かと心配しましたが、幸いこの地方では大きな被害もなく、ホッと胸をなでおろしております。

その後、台風20号が再び日本列島に接近し、その影響で漁船が八丈島沖で転覆するという痛ましい事故が起きました。1名死亡、4名行方不明という目を覆いたくなるような惨事に、深い悲しみの念を抱くと共に、改めて自然の脅威を痛感しました。そのような状況下において、転覆した船底でじっと助けを待ち続けた3名が、4日ぶりに救助されるという「奇跡」な生還のニュースには本当に驚かされました。悲しい事件や事故のニュースが連日、多くに報道される中で、多くの人に勇気と希望を与えてくれたこととしたいと思います。

会報も18号の発行となりました。ひとえに皆様のお力添えのおかげです。今後もお意見・ご指導をお待ちしております。(編集子)

